

配信タイムスケジュールにより、参加企業は配分時間25分間の持ち時間のなかで、各社の特色や業務内容を説明し、さらには視聴学生による質問などに答えながらイベントは進められた。学生の企業への理解度は、対面形式でもオンライン形式でも差はないと言われている。また、参加学生は全国各地から簡単に参加アクセスができるため、事前申込数約1,400名、総視聴者数延べ6,000名とこれまでにない盛況ぶりだった。こ

他に、多くの企業を視聴していただくため、特別企画としてキーワードを集めた学生には、Amazonギフトカードのプレゼントも実施した。

今回のイベントは2日間のLIVE配信となったが、これらの様子は1月20日から2月末までオンデマンド配信する予定で、学生のタイミングで全ての企業を視聴することもできる。多くの学生が建設業界への就業意欲を深める効果的な機会となることを期待したい。

わくわく・すいすい「空を翔ぶ」 2020イベント実施報告

新型コロナ感染問題で開催が危ぶまれましたが、2020年11月7日(土)に例年のように船に乗って橋や街の姿などを見学する「水辺探検」を取り止め、わくわく・すいすい「空を翔ぶ」陸上イベントを実施しました。関係者による周到で細心の準備状況をご理解下さいました事で、これまで通り東京建設業協会第一支部と東京土木施工管理技士会の後援を頂戴できましたことに感謝申し上げます。

参加は中央区立阪本小学校の1年生から6年生の28名の児童で、予想以上に募集人数を超えましたが、楽しみにしていた気持ちに応える配慮から、当初の人数を増やしての実施に踏み切り、無事に終わらせることが出来ました。

会場の阪本小学校は明治5年、近代日本の公立一番小学校として設立された歴史ある学校です。この2年

の歳月をかけて建て替え工事が行われ、昨年9月に新しい建物が完成しました。一体的に設計された閉閉型屋根付き屋上校庭は、天井が高く紙飛行機を飛ばす恰好の空間で、コロナ禍のために竣工記念の運動会も出来ず、沈みがちな子どもたちの気分転換になったと喜んで貰えました。

さらに追記させていただきますが、隣接していた仮設校舎の跡敷地では、新しく地域公園の工事が始まります。すべての学級教室から工事の様子を観察できるのですが、このような環境で育つ子どもの中には、未来の公園づくりの専門家を目指す人材を輩出する可能性が期待されるのではないのでしょうか。

報告者 実行委員長 阿部 彰
(わくわく・すいすいー2020実行委員会)



上/山梨の日本航空学園で教鞭を取っていた水野宏一先生が開発した組み立て式紙飛行機です。単3電池で充電する超小型モーターを搭載し、数分間飛び続けることができます。

右/高さ8~12mの空間を上手に円弧を描いて数分間飛び紙飛行機のコンテストが行われました。中には残念ながら思ったように飛ばないものや、高く飛びすぎて天井の鉄骨に挟まる飛行機もありましたが、楽しい思い出になったことでしょう。

